

10th Piano Quartet Concert

ピアノ四重奏の 煌めき

2026年

12/26 (土)

19:00 開演 (18:30 開場)

長野市芸術館 リサイタルホール (地下2F)

Program

ラハナー

『古き良き時代』 Op.77 (弦楽三重奏)

フォーレ コンクール小品 (Cello)

ドビュッシー 夢想 (Cello)

ラヴェル 水の戯れ

フォーレ ロマンズ Op.28

サン=サーンス 死の舞踏

ブラームス

ピアノ四重奏曲 第2番 Op.26



Cello

クリストファー・聡・ギブソン

Piano

山田 亜理沙

Violin & Viola

綿貫 舞乃

Violin

村石 達哉

入場料 ¥3,000 (一般) ¥1,500 (高校生以下) 全席自由

10月1日 (木) チケット発売開始 ※未就学児の入場は、ご遠慮下さい。

長野市芸術館チケットオンライン <https://www.nagano-arts.or.jp/>

長野市芸術館チケットセンター Tel. 026 - 219 - 3191 (10:00 ~ 19:00/火曜日定休)

長野市芸術館
チケットオンライン



- 主 催
- 問い合わせ先

グリーンハウス・コンサート実行委員会
Tel. 070 - 8477 - 3041 (りんごホール)



山田 亜理沙（ピアノ） Arisa Yamada (Piano)



東京学芸大学卒業、ドイツ留学を経て、武蔵野音楽大学大学院修了。オーストリアやフランス等のマスタークラスで研鑽を積む。スタインウェイ国際ピアノコンクール(独)入賞、ベルリン・フィルハーモニー室内楽ホールで演奏。鹿児島新人演奏会県知事賞。大阪国際音楽コンクール古楽部門エスポワール賞。ポーランド国立クラクフ室内管弦楽団と共演。ピアノを池川礼子、岡村重信、F.ウィバウト、笠間春子、山田富士子、中野孝紀、丸山淑子、チェンバロを西山まりえ、オルガンを石丸由佳、三原麻里の各氏に師事。武蔵野音楽大学伴奏員を務める傍ら、室内楽をはじめ声楽・合唱・指揮伴奏など多岐にわたる分野で演奏活動を行う。美術館でのレギュラーコンサートやNHK-FM『第九』特別番組の伴奏も務める。『バッハ：ブランデンブルク協奏曲全曲演奏会』出演など通奏低音奏者としても活動の幅を広げ、古楽から近代作品まで精力的に取り組んでいる。

村石 達哉（ヴァイオリン） Tatsuya Muraishi (Violin)



5歳よりヴァイオリンを始め、武蔵野音楽大学、同大学院、ベルリン国立芸術大学に学ぶ。SFBラジオ第2放送、ドイツ、イタリア、スウェーデンにおいてリサイタルを開いた後、95～96年にドイツのオーケストラ「エルプランド・フィルハーモニー」の首席コンサートマスターを務め集客力がなかった楽団を再生し惜しまれながらも退任し、その後ソロ活動に移りヨーロッパを中心にオーケストラと共演、音楽祭出演、客演指揮を行い99年に帰国し現在に至る。バロックヴァイオリンの奏者としても研鑽を積み、中国ツアー、米国ツアーを行った。バロック音楽の視点からの作品の演奏解釈を行いアカデミックな表現法を試みている。またそれが認められ2013年にはインディアナ大学の招聘を受け演奏。2015年より毎年ベルリンでのリサイタルを再開し、またオーストリアのオツタールで夏に行なわれている音楽祭のマスタークラスの講師を毎年務めている。

綿貫 舞乃（ヴァイオリン & ヴィオラ） Maino Watanuki (Violin & Viola)



3歳よりヴァイオリンを始める。これまでに伝田充正、村石達哉、マリアンネ・ベッチャー（ベルリン芸大教授）、ハルトムート・オメッツベルガー（ウィーン）の各氏に師事。ドイツ・ラインスベルクとオーストリア・オーバーグーグルのマスタークラスに参加し、共にファイナルコンサートに出演する。15年、16年、17年、19年ベルリン及びオーストリアでのコンサートに出演し好評を得る。18年にオーストリアのグラーツにてヴィヴァルディのヴァイオリン協奏曲を室内オーケストラと共に共演。19年にウィーンのカプツィーナ教会にて演奏会を行った。22年、ソリストとしてメセナ市民交響楽団と共演。メセナジュニアオーケストラを経てメセナ市民交響楽団のメンバー、コンサートミストレスを務める。現在、ウィーンと日本での演奏活動と共に後進の指導も行っている。T&M音楽企画の専属アーティスト。

クリストファー・聡・ギブソン（チェロ） Christopher S. Gibson (Cello)



4才よりチェロを始める。高校在学中にTanglewood, Indiana University, Interlochenの夏期プログラムに参加。横浜インターナショナルスクール卒業後、2005年に米イエール大学に進学、哲学・政治学を二重専攻。在学中、Aldo Parisotとのオーディションに合格し、イエール音楽院にてメニューイン氏との共演を果たしたOle Akahoshi氏に、室内楽をWendy Sharp氏に師事する。2011年秋にイエール大学卒業後、哲学、文学、芸術を通して英語を教えると共に、チェリストとして東京・鎌倉を中心に活躍中。2012年冬、国際演奏家協会新人オーディションにてバッハ無伴奏ヴァイオリンパルティータで入賞した際、審査員の一人であるヴァイオリニスト川畠成道氏から「曲の世界に入り込むことの出来る演奏」という賛辞を受ける。

